

## 第10回 プラットフォームエコノミクス研究会 議事要旨

日時：令和4年3月15日（火）9時00分～11時00分

場所：オンライン開催

### 出席者

メンバー：依田委員、市橋委員、大木委員、黒田委員、善如委員、土居委員

ゲスト：橋高勇太氏（神戸大学 経済学研究科）

坂口洋英氏（慶応義塾大学 経済学部）

オブザーバー：内閣府デジタル事務局、消費者庁消費者政策課、公取委デジタル室

### 議事概要

#### 1. デジタルプラットフォームに関する経済学論文の概要報告

- ・ 経済産業省深澤経済分析専門官から、Yale 大学の Digital Markets Literature Review に掲載されているデジタルプラットフォームに関する経済学論文についての説明が行われた後、質疑応答が行われた。
  - ✓ 経済学系主要論文が112件掲載されているが、このうち、論文中で政策や規制に言及されている55件について概要を整理。理論論文が半分以上を占め、実証は少ない。
  - ✓ プラットフォーム間の相互互換性を促進する施策は、既存企業の優位性を低下するのに有効であるといった指摘を行っている論文もある。
  - ✓ 特定の個人情報から別の個人情報が推測できてしまうというデータの外部性は、データの価格を低下させ、過剰なデータ共有につながることや、プラットフォーム間の競争の激化はその傾向を悪化させ得ることを示している論文も発表されている。

#### 2. 論文“Passive or Active? Behavioral changes in different designs of search experiments”について

- ・ 神戸大学橋高氏から上記論文についての説明が行われた後、質疑応答が行われた。
  - ✓ プラットフォームがどのように情報を提示するかによって、消費者の情報探索行動が異なるのではないかとこの点について実験を行った。
  - ✓ その結果、情報探索における消費者の意思決定の関与の度合いによって、探索結果の受け入れの度合いが異なることが示された。消費者の関与の度合いが低い「受動」モデルでは、リスク回避的な消費者がより早く探索を打ち切るため、探索結果を受け入れやすいことが明らかになった。

#### 3. レビューの不正操作に係る実証研究について

- ・ 慶応義塾大学坂口氏から上記研究成果についての説明が行われた後、質疑応答が行われた。
  - ✓ 本研究は、レビューの不正操作はどのような主体によって行われているか、また、レビューの不正操作はどのようなインセンティブのもとで行われているか、を分析するものである。
  - ✓ 実証分析の結果、低品質な商品の売り手が、特に販売初期に、当該商品が高く評価されているかのようにレビューを偽造している可能性が示唆された。ここから、低品質の商品を売りつけるためにフェイクレビューを利用している可能性があることが伺われる。
  - ✓ 現在、隠れB問題（消費者の中に事業者性を有する者がいる場合の法の適用問題等）が注目されており、削除されたレビューのデータをプラットフォームが提供しないと、隠れBとして不正を行っていた事業者の情報が

得られないことが問題となっている。本研究により不正行為や悪徳事業者の発見に活用できる貴重なデータが取得できることが示されたわけだが、今後、これを政策に活かしていけるとよい。

#### 4. 今年度総括

各委員から、今年度の成果等について、以下のような意見が寄せられた。

- 政策的な意義という観点から、関係者と議論を行うことができ、非常に有益であった。
- 最新の研究成果の報告とあわせて、当局関係者からの説明や議論が行われたが、この部分が、他の研究会にはない非常にユニークな特徴であり、有意義であった。
- 本研究会を通じて、最新の研究成果を吸収することができた。また、世間の関心の高いトピックを学ぶことができたため、今後、そのようなテーマの研究を深めていきたい。
- 経済産業省とエコノミストとの連携により、本研究会は実現された。本研究会では、経済学における最新の研究動向を共有しながら、今後の研究の方向性や政策のあり方について議論を行うことを目指してきたが、今後につながる意義ある成果が生み出された。

#### お問合せ先

商務情報政策局 情報経済課 デジタル取引環境整備室

電話:03-3501-0397

FAX:03-3501-6639